

実習についての一考察——実習概論について——

○大島健治, 保田正毅, 秦恵美子, 森享恵, 一盛久子

名古屋短期大学

I 実習内容を検討するにあたって

短大における保育者養成の向題として、実習とどう考え、位置付けていくのか、多くの課題がある。

従来、実習では、保育の現場へ学生と出向くについては、短大側として、一応の実習目標や、学習方法の形成は、明示しても、最終的には実習園の方針にまかせ、実習園と連絡を取り、短大教員が出席して指導する部分があるといえ、まかせてしまう事をまぬがれ得なかった。

そこで、実習担当の教員は、学生を実習に出すための事務的処理におわれるという実状があり、それでやもう得ない処置とみなされもした。この点について、短大二年間の過密なカリキュラムの中ではあるが、二年間の学習期間中に、実習の内容に系統性をもたせる事、実習教員を中心に、内容の質と深める必要があるという事及び、保育者養成上、講義の中で聞いた内容と、実習の体験と結びつけて考える機会、友だちと討論する機会、書く事によって確かめる機会を与えつつ、実習に入る前のオリエンテーションの意味をもたせつつ、一つの試みとして、実習概論を、行ってみた。

II 実習概論のねらいと方法

I. ねらい

保育者になりたいと希望する学生の実態及びその後の実習経験からまずはじめに（1年前期）に次の四点にねらいを置く事にした。

- (1) 子どもとリアルにとらえる。
- (2) 教育作用の認識（保育者の任務）
- (3) グループ討議を通じて建設的な意見を出せるようにする。
- (4) 記録の整理

2. 形態

毎週2コマ（1コマ90分）ずつ行い、前半約1時間は全員集っての講義、講演、映画観賞、テキス

ト講読等にあて、中1時間程はグループに分かれての討議、後1時間程で各自のレポート作成といった時間配分と基本の型とし、1年前期は回で1講座とした。その他、実地に子どもの実態調査に行ったり、子どもの立場に立つての「おはなしづくり」としたり、講演には先輩保育者、指導員を招き、多面的に子どもをとらえ、保育者の実態を見聞し、そして、グループ活動が十分に行えるよう6〜8人のグループ編成にした。

又レポートを書く時間を十分に与え、その日にはそのレポートをもとにして、担当教員が課題を与え、時には講義もとり入れるように留意した。

3. 運営の方法

計画を立て、運営し、評価するのは、5名からなる実習運営委員で、毎週定例の委員会をもち、細部にわたる検討を加え、当日は、講義、講演、講師の紹介、グループ討議の助言など3名の委員が手分けして行う。グループ討議の時は学生の主体的な発言を優先させる。

運営委員の構成はカリキュラム委員1名、教育、保育原理関係より2名、児童養護関係より1名、実習事務関係より1名、計5名とした。

III 実習概論の内容

第1回 オリエンテーション・レポート

- (1) 実習運営委員の紹介と委員会の役割説明
- (2) 実習全般の目標と二年間の計画
- (3) 実習概論の目的と方法
- (4) レポート作成

課題(1) 子どもとはどんなものか。

(2) どんな子どもに育てたいか。

第2回 講義、討議、レポート

- (1) 前回レポートに表われた幼児観と向題提起。
- (2) テキスト（ちがうぼくととりかえて 清水えみ子著）紹介。

- (3) グループ討議の意義、方法について
 (4) グループ討議とグループ代表の発表
 (5) レポート作成

課題(1)自分が考えていた事とどう違っていたか。

(2)興味をもてた点

第3回 講義、討議、レポート

- (1) バズ学習について
 (2) 課題の解説
 (3) グループ討議について (4) 報告 (5) レポート作成
 課題(1)子どものねがいとどのようにとらえていくか

(1) 子どもはどんな場合に喜びを感じるか。

(2) 子どもと友情はどのような時に芽生えるか。

(3) 大人と子どもの発見や、おどろきの違い。

第4回 講演、討議、おはなづくり、レポート

- (1) レポートに表われた子どもの見方についての説明と問題提起。
 (2) グループ討議

課題 子どもはなにに疑問をもつか。そしてどのように理由付けるか。

(3) おはなづくり

課題 子どもの立場に立って「おはなづくり」とする事を通して子どもの対話の世界の形成を理解。

例題 (1) 夜中のない国、(2) さといものくき etc

(4) レポート作成

課題 グループ討議及び課題のまとめ

第5回 子どもの実態調査の話、映画観賞

- (1) 実施要項の説明 (2) 映画「子どもの心と魂」

第6回 子どもの観察、実態調査

- (1) 場所 緑地公園における子ども会のつどい
 (2) 目的(1)子どもの実態を自然な姿でとらえる。
 (2) 保護者との対話 (3) グループで記録をつくり検討する。
 (3) 観察と実態調査

課題(1)子ども集団を追跡し、言語、行動の記録

(2) 子どもがなにを驚き、関心を示し、どんな表現、行動をするか。

(3) 子どもどうしの関係

(4) 保護者に対しては、子ども会につれてきた理由を聞く。

第7回 (1) 実態調査の記録をまとめる。(2) 討議

(3) レポート作成

第8回 講演、レポート

- (1) 「障害児の実態と福祉の現状」 (2) レポート

課題「ちえ遅れの子どもの悲観して親子で中事件についてどう考えるか」

第9回 映画「この子らを世の光に」観賞

同じく討議、レポート作成する。

第10回 講演「障害児の発達と保障について」

レポート課題「三田にわたる障害児の福祉についての学習から何を学んだか。」

第11回 講義、討議、レポート

- (1) テキスト「幼児時代」から学習する事。講義。

(2) 幼稚園、保育所の実態について。この後、討議とレポート作成。

第12回 講義、討議、レポート

- (1) レポートに表われた保育者像と問題提起 為田氏

第13回 レポート作成

課題(1)子どもとはどんなものか。(2)この講座にのぞむ事

第14回 講演「私の歩んできた道」先輩保育者講演 レポート作成「講演の感想」

Ⅱ. まとめと今後の課題

この講座には、絶えず困難がつきまといながら、学生たちは成長した。例えばYは、「この講座のはじめに『子どもとは何か』について書いた時、私は、フランスックのようなものとか白痴のようなものという意見が多かったと記憶しているが、現在は、そのように考えていない。子どもは、まわりの環境との中で、自分で考え、感じ成長していくものである。……」と子ども観が変化を自ら認めている。又、Tは、「子どもの生き生きした姿、先生の経験談を聞き、私の保育に与える甘さを感じた。今後、子どもと率とは何か深める中で、保育者になるという事を今一度、自分自身としてみたい」と今後の学習を明確にしている。

更に、講座の途中、早く子どもに接したいという気持ちが強くなり、緑地公園で行われた子ども会のつどいに参加して(日曜日)かなり意欲的に子どもと対話を記録し、そのむづかしさも知ったようである。一方、グループ討議のまです、課題のむづかしさもあって、今後の内容の精選及び課題の検討が多くの課題である。